

2018年度（平成30年度）
上智大学 大学院・助産学専攻科入学式 学長式辞

2018年（平成30年）4月2日

上智大学長 曄道 佳明

博士後期課程、博士前期課程、また助産学の修学に強い決意を持って、本日の入学式に臨まれている皆さん、ご入学おめでとうございます。ご臨席のご父母並びにご関係の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

社会は変化に満ち溢れています。不確実な、不透明なという形容の仕方には、一定の理解をせざるを得ない状況ではありますが、一方でチャンスに満ち溢れた社会の到来という肯定的な見方もできるのではと強く感じます。これまでの人類が構築した社会は、このように大きな変化を遂げるタイミングで、目を見張るような発展がありました。皆さんがより高度な学術の世界に身を置くことは、この創造性豊かな社会に対する挑戦であると、私は皆さんに尊敬の念を抱かずにはられません。そこで、皆さんに問いかけたいと思います。自分自身の専門性を高め、深めることは、これからの時代にどのような意味を持つのでしょうか。大きな社会変革を伴う次世代社会の到来は、目の前に控えています。皆さんの挑戦は、この変化の兆候を敏感に捉えた結果でしょうか？

グローバル化は待ったなしで進んでいます。一国主義あるいは民族主義的な動きも世界には存在しますが、それもグローバル化の一つの流れであろうと思います。グローバル化は、ローカルの顕在化も意味するからです。この社会のグローバル化の行き着く先はなかなか見出せず、政治、経済、科学技術、また異文化交流や宗教対話といった側面からも、今なお多くの試みや議論の中で模索が続いているのが現状です。多様性を前提とした社会の中であっても、この議論は今後も続いていくことと思います。皆さんには、多様性の理解にとどまらず、多様性が世界を成り立たせているという社会の構造を理解していただきたい。この社会で、自分自身の立ち位置をしっかりと見出すためには、専門性を高め、自身の意見や主張のバックグラウンドを明示して、周囲から信頼を得ていくことが必要でしょう。何を根拠に自分はその意見を展開、支持するのか、あるいはなぜその方針に反対するのか、いずれの場合にも自分の考えが何に支えられているかを明示できることは大きな説得材料となります。もちろん、特化

された分野の中での学術的議論であればなおさらのことでしょう。

一方で、AI、IoT、ビッグデータなどによる情報化、デジタル化の新しいフェーズは、私たちに新しい社会の構築を要請します。その構築プロセスでは、新しい倫理や価値観の醸成が不可欠です。この基盤なしには、新しい規範や社会制度も練り上げることはできません。これからの時代に、専門性の高い人材の育成が期待される要因の一つはここにあります。社会の変革の中で倫理を形成し、新しい価値を創造し、次世代社会をデザインする。このチャレンジ精神を有するリーダーを社会は待ち望んでいます。

ご承知の通り、上智大学では、一つのキャンパスにおいて、10の研究科で教育・研究活動が展開されています。これは、上智大学の大学院教育および学術研究に対するメッセージでもあります。自分自身の専門分野だけでなく、隣接する学際的分野、あるいは融合的分野へのアプローチを容易にする環境は、社会の、あるいは学術の将来展望の観点からも大きな力となることでしょう。異なる分野の研究者との交流は、新しい視点やヒントを与えてくれ、創造的な研究活動に大いなるきっかけを与えてくれるものと確信しています。ぜひこの上智ならではの環境下で、新しいチャレンジを推進してください。

大学院教育も新しい挑戦を余儀なくされています。社会のグローバル化は人の移動や交流を促進し、学術の発展に好影響を与えることは間違いありませんが、一方で競争的社会の様相も強まっていくと思われまます。上智大学大学院に学ぶ皆さんには、そのような競争的社会においても、自己を発揮し、他をリードして、たくましく生き抜く精神力、術、そして実践力を備えていただきたいと思ひます。そしてその根底には“他者のために、他者とともに”という上智のスピリットを忘れずにいてください。

先ほど、カトリックセンター長からマタイによる福音書の一節が紹介されました(注)。小さな種が少しずつ成長し、よい世界、よい人生を導いていく。つまり、与えられた小さなチャンスが、忍耐の中で育まれ、正しい生き方につながる過程が説かれています。皆さんの目標への到達のプロセスでは、常にこのことを意識してください。このような人間性のあり方について、高度な学術的専門性を身に付ける皆さんが考えることこそが、次世代社会の構築に最も必要とされる教育の側面であろうと考えます。

強固な学術的バックグラウンドを獲得し、常に他者への視線を注ぐことによって、これからの皆さんの歩みに、大いなる成長と発展が生み出されることを祈念して、私の式辞とさせていただきます。

(注) マタイによる福音書 13章 3~9節

イエスはたとえを用いて群集に多くのことを語られた。「種を蒔く人が種蒔きに出て行った。蒔いている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。ほかの種は茨の間に落ち、茨が伸びてそれをふさいでしまった。ところが、ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。耳のある者は聞きなさい。」